



2018年5月10日

アウディ、新たな企業戦略で2025年に80万台の電動化モデルの販売を計画

- ルパート シュタートラーCEO：「業界を主導して、eモビリティを次のレベルへと引き上げる」
- アレクサンダー ザイツCFO：「新しい収益性の高いビジネスモデルの導入を世界中で加速している」
- サステナビリティ：20以上の電動化モデルを発売し、2025年に約80万台の販売を目指し、2030年までにはアウディの全生産拠点をCO2ニュートラルにする
- デジタル化：新しいビジネスモデルを構築し、この分野で2025年に営業利益10億ユーロを達成する
- 都市化：自動運転の電気自動車、Audi Aiconの試験走行を2021年に開始

2018年5月9日 インゴルシュタット：AUDI AGの取締役会は、水曜日に開催された株主総会において、「Audi.Vorsprung.2025」と名付けられた最新の企業戦略を提示し、その中で、2025年に約80万台の電気自動車とプラグインハイブリッドを販売する目標を発表しました。2020年代の半ばまでに3人に1人のお客様にアウディの電動化モデルを選択していただくためには、すべてのモデルラインナップに電動化バージョンを設定する必要があります。その大部分は電気自動車で、一部はプラグインハイブリッド車となる予定です。

数十億ユーロに上る投資計画の財源を確保するため、アウディは昨年末に“変革を目指すアクションプラン (Action and Transformation Plan)”を採択しました。このプランは、新たな収入源を開拓し、コスト構造を改善し、新しいビジネスモデルを構築するために企業の変革を加速することを目的としています。そのため、投資対象が大幅に拡大することになるでしょう。2025年までに約400億ユーロが、eモビリティ、自動運転、デジタル化といった戦略的分野に投下されることとなります。これは、生産分野のデジタル化にも適用されます。

AUDI AG取締役会会長のルパート シュタートラーは、次のように述べています。「私たちの視線は、常にアウディのスローガンである“Vorsprung durch Technik (技術による先進)”の実現と継続に向けられています。私たちの目標は、モビリティに革命を起こすことです。私たちはまた、eモビリティの分野で、プレミアムメーカーのリーディングカンパニーになりたいと考えています。そのためには、日常ユースへの完全な適合性、最高の品質、優れたドライビングプレジャーを持つ妥協のない製品をお客様に提供する必要があります。アウディが備える卓越した技術により、私たちはVorsprung (先進性) を製品に適用し、eモビリティを次のレベルへと引き上げます」

Audi e-tron プロトタイプの子販モデルは、“Roadmap E”と呼ばれるイニシアチブの最初の成果です。アウディは、2025年までに、すべてのモデルラインナップを電動化する予定です。これには、ドイツのインゴルシュタット及びネッカーズルム工場に対する投資と、2025年末までの雇用保障に対する明確な約束が含まれます。

アウディの製品攻勢には、2025年までに20以上の電動化モデルを次々と投入する計画が含まれています。2019年には、Audi e-tron Sportbackが2番目の電気自動車として発売され、2020年にはAudi SportからAudi e-tron GTが登場します。2020年には、プレミアムコンパクトセグメントにも電気自動車を投入する予定です。

“Roadmap E”に基づき、アウディはフォルクスワーゲングループの主要企業2社と共同開発を実施することにより、相乗効果を生み出していきます。コンパクトセグメント用にフォルクスワーゲンが開発

したモジュラーエレクトリックツールキットに加えて、アウディとポルシェは、ミッドサイズ、フルサイズ、ラグジュアリークラスの電気自動車向けのプレミアムアーキテクチャーの開発で協力しています。これらの共同プロジェクトによって、開発コストが大幅に削減されます。これは、お客様にとっては、ゼロエミッションカーの幅広いラインナップを、より早いタイミングで選択できるようになることを意味しています。

アウディは、e モビリティの推進と同時に、生産拠点にも、総合的で資源を節約するアプローチを採用しています。ブリュッセルで生産される Audi e-tron は、認証を受けた CO₂ ニュートラルな工場生産される初めてのプレミアムカーとなります。ブリュッセルに続いて、アウディは 2030 年までに世界中のすべての生産拠点を CO₂ ニュートラルにする予定です。

ヨーロッパのお客様は、Audi e-tron の市場導入時に、高性能な充電インフラの恩恵を受けることになるでしょう。アウディは、欧州における超急速充電ネットワークの新会社であるイオニティ (IONITY) に共同出資することによって、インフラの発展に大きく貢献しています。Audi e-tron の市販バージョンは、最大 150 キロワットの急速充電ステーションで充電できる最初のクルマとなります。これにより、この電気自動車の SUV は、わずか 30 分以内に次のロングドライブへと出発できるようになります。車両に搭載されるリチウムイオンバッテリーは、WLTP ドライビングサイクルで 400km 以上の航続距離を実現します。

Audi e-tron プロトタイプ在市販バージョンでは、お客様は、車両を購入した後でも、ドライバーアシスタンスシステムやエンターテインメントといった機能を柔軟に契約して利用できるようになります。今後、さらに多くのデジタルコンテンツとサービスが、徐々に提供される予定です。アウディは、2025 年までに、この新しいビジネスモデルから、年間 10 億ユーロの営業利益を計上することを目指しています。

AUDI AG 技術開発担当取締役のペーター メルテンスは、次のように述べています。「私たちは、2021 年に、“Vorsprung durch Technik” の 50 周年に合わせて、Audi Aicon コンセプトカーをベースにした自動運転の電気自動車を発表します。ラウンジのようなインテリアを備えたこのクルマは、当初は都市間を結ぶシャトルとして公道における試験走行を開始し、2020 年代の半ばには自動運転車として生産を開始する予定です」

AUDI AG 財務担当取締役のアレクサンダー ザイツは、次のように述べています。「私たちは、将来の自動車業界にとって不可欠なこれらの分野において、新しい収益性の高いビジネスモデルの導入を世界中で加速しています。今年の 1 月以降、数億ユーロの規模に相当する“変革を目指すアクションプラン”の最初の施策が実施されました。この施策は、持続的な効果を備え、売上高の増加とコストの削減に長期的な影響をもたらすでしょう。これによって、2020 年には利益が最大化され、計画が完遂された場合は、2022 年までに合計で 100 億ユーロの利益を生み出すこととなります。このようにしてアウディは、巨額の投資を行っても、高い収益性を確保することが可能になります」

※本リリースは、AUDI AG 配信資料の翻訳版です。